

阪神・淡路大震災 追悼のことば

(令和4.1.17 正午 全校放送にて)

皆さん、こんにちは。校長の川崎芳徳です。

授業中ではありますが、今日は1月17日、私たちが、決して忘れてはいけない日ですので、少しの時間、追悼行事を行わせていただきますこと、ご理解ください。

今から27年前の1月17日、まだ、多くの人が眠っていた、早朝5時46分52秒に、マグニチュード「7.3」、最大震度「7」という、巨大な「兵庫県南部地震」が発生し、「阪神・淡路大震災」を引き起こしました。

犠牲者、6,434名という、多くの尊い命、思い出の詰まった家、住み慣れた街並み、そして一人一人が大切にしていた、あらゆるものを、一瞬にして奪い去りました。

犠牲者6,434名、これは、須磨友が丘高校、北須磨高校、須磨東高校、長田高校、星稜高校、舞子高校、伊川谷高校、伊川谷北高校、この8校の生徒全員、教職員全員の人数とほぼ同じです。

お一人お一人、たった一度だけの、尊い、それぞれに、夢と希望に満ち充実した大切な人生の、真ただ中だったのです。

この震災が、突然に、一瞬にして奪い去りました。あまりにも惨い一瞬でした。

現在、震災を知らない人が増えていく一方、またいつ、大地震、大型台風、集中豪雨などによる災害に見舞われるやも知れない今日、追悼行事を通して、震災の「経験」、そして、そこから得た「教訓」を風化させることなく心に刻み、継承していくことが強く求められています。

皆さん、毎年、この時期には、どうか、これらのことに、心静かに思いを寄せるとともに、ご家族・友人と話題にし、語り継いでいってください。

震災でお亡くなりになりました方々に、心より哀悼の意を表し、追悼のことばといたします。